

Notes on Asiatic moss flora, I. Advanc. Front. Pl. Soc. 4: 105-126. pl. I-VIII.

* * * * *

本報告については 1962 年 10 月名古屋大学における日本植物学会第 27 回大会において講演し、その要旨は『蘚苔地衣雑報 2 巻 12 号』(1962) に掲載されている。ただ、その時用いた標本は 103 点であったのに、その後さらに 4 点が追加され、またその当時同定不能だったものや検討不充分だったものも、その後検討されてつぎの 5 種 1 変種が加わっている。*Bohlia cruda*, *Bryum himalayanum* (新種), *B. pseudoalpinum* var. *reflexifolium* (新変種), *Conostomum* (?) sp., *Bartramia halleriana* および *Philonotis socia*。これらのうち *Philonotis socia* は従来日本、韓国、台湾および中国からだけしか知られていなかったもので、インドからは今回新しく報告されたことになる。筆者はさきにセン類にみられる分布型の一つとして“Sino-Himalayan and Japanese”を考へ(1962)、本種をもその型の中に入れておいた(1963)。当時はこのことをいささか冒険かとも思っていたが、丁度よいところから本種がみつかったことになる。また、一応 *Bartramia pomiformis* に入れた標本のうちに、かつて Dixon (1954) が示唆した、*B. pomiformis* と *B. halleriana* との雑種ともみられる孢子体のあることをものべている。その他については上記の『蘚苔地衣雑報』と重複するので割愛したい。

□ 属の進化に要した時間の例 The American Naturalist 97 (896): 319-331 (1963) にのった Colbert, E.H.: Phylogeny and the dimension of time は動物化石と層序から割出した数字を挙げている。米国内カナダ境(北モンタナと南アルバータ両州)に上部白堊紀層が 300 呎の厚さで推積し、その中に嘴を持った恐竜(hadrosaurian dinosaur)の各属が多数に化石となっている。主に三つの時代区分に分れて継代生存し、系統をたどることができる。これらの消長変遷と放射性元素による岩石の時代決定とをみ合せて、属が新生し発展消滅するのは 500 万年又はそれより長い位の年月であるとのべている。動物と植物とは標準も体制も違うが一つの参考に御紹介する。(前川文夫)

□ Archaeophytes に対する訳語「古来雑草植物」 本誌 38 巻 10 号, 308 頁に、水島正美氏が「史前帰化植物」に対する英語として、Archaeophytes が適切であることを紹介した。最近、これも偶然だが、この用語に対して、「古来雑草植物」という訳語が、中国科学院編訳出版委員会名詞室編訂〔俄英中〕植物地理学、植物生態学、地植物学名詞, p. 18 (1956) にでていたことを発見した。簡にして要をえた用語である。水島氏とは逆の発見であるがここに紹介する。(佐竹義輔)